

(様式 3 号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 松田 まど

か

〔題名〕

Combined use of computed tomography enterography/enteroclysis and capsule endoscopy improves the accuracy of diagnosis of small bowel bleeding

(CT エンテログラフィ/エンテロクリーシスとカプセル内視鏡検査の併用は小腸出血の診断能を向上させる)

〔要旨〕

【背景】CT エンテログラフィ/エンテロクリーシス (CTE) はカプセル内視鏡検査 (CE) と同様に小腸出血のガイドラインに記載されているが、日本では CTE に関する実際のデータはない。この研究は日本における CTE の診断能と CTE 検査後の長期予後の調査を目的とした。【方法】2008 年 4 月から 2019 年 3 月までに小腸出血の疑いのある患者に対して CTE と CE 両方を 30 日以内に実施した症例を対象とし後向きコホート研究を実施した。24 カ月再出血がないについても検討した。【結果】データベースより 71 例が抽出され、CTE で出血源が検出されたのは 43 例(60.6%)であった。小腸出血の確定診断が得られた 31 例で検討したところ、CTE の感度は 19/31(61.3%), CE は 24/31(77.4%)と有意差を認めなかったが(P 値 = 0.332)、CTE と CE を併用した場合の感度は 30/31(96.8%)と CE 単独と比較して有意に高かった(P 値 = 0.0412)。CTE と CE のどちらも出血源となり得る病変を認めなかった例では再出血を認めなかった(p=0.0965)。【結論】CTE と CE の併用により小腸疾患の検出率は向上した。特に腫瘍/ポリープが疑われる患者には CE だけでなく CTE も実施する必要があると考えられる。本検討は CTE を用いた小腸出血診療に関する、日本における最初のリアルワールドデータである。

作成要領

1. 要旨は、800 字以内で、1 枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること。

学位論文審査の結果の要旨

令和3年2月19日

報告番号	甲 第 1592 号	氏 名	松田 まどか
論文審査担当者	主査教授	山崎 隆弘	
	副査教授	永崎 浩志	
	副査教授	坂井 田 功	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Combined use of computed tomography enterography/enteroclysis and capsule endoscopy improves the accuracy of diagnosis of small bowel bleeding (CT エンテログラフィ/エンテロクリーシスとカプセル内視鏡検査の併用は小腸出血の診断能を向上させる)			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Combined use of computed tomography enterography/enteroclysis and capsule endoscopy improves the accuracy of diagnosis of small bowel bleeding (CT エンテログラフィ/エンテロクリーシスとカプセル内視鏡検査の併用は小腸出血の診断能を向上させる)			
掲載雑誌名 Internal Medicine (掲載予定)			
(論文審査の要旨)			
<p>【背景】 CT エンテログラフィ/エンテロクリーシス (CTE) はカプセル内視鏡検査 (CE) と同様に小腸出血のガイドラインに記載されているが、日本では CTE に関する実際のデータはない。この研究は日本における CTE の診断能と CTE 検査後の長期予後の調査を目的とした。【方法】 2008 年 4 月から 2019 年 3 月までに小腸出血の疑いのある患者に対して CTE と CE 両方を 30 日以内に実施した症例を対象とし後向きコホート研究を実施した。24 カ月再出血がないについても検討した。【結果】 データベースより 71 例が抽出され、CTE で出血源が検出されたのは 43 例(60.6%)であった。小腸出血の確定診断が得られた 31 例で検討したところ、CTE の感度は 19/31(61.3%)、CE は 24/31(77.4%)と有意差を認めなかったが(P 値 = 0.332)、CTE と CE を併用した場合の感度は 30/31(96.8%)と CE 単独と比較して有意に高かった(P 値 = 0.0412)。CTE と CE のどちらも出血源となり得る病変を認めなかった例では再出血を認めなかった(p=0.0965)。【結論】 CTE と CE の併用により小腸疾患の検出率は向上した。特に腫瘍/ポリープが疑われる患者には CE だけでなく CTE も実施する必要があると考えられる。本検討は CTE を用いた小腸出血診療に関する、日本における最初のリアルワールドデータである。</p> <p>本研究は、小腸出血診療における CT enterography/enteroclysis とカプセル内視鏡検査の併用の有用性を明らかにした論文である。よって、学位論文として価値あるものであると認められた。</p>			
備考 審査の要旨は800字以内とすること。			